

# 増田俊男の『愉快な暴言』2026年3月18日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](#)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t\\_masuda2019/](#)



時事評論家 増田俊男

## トランプの Epic Mistake(壮大な間違い)

トランプはイラン戦争を Epic Fury (壮大な怒り) と呼ぶ。

これに対してイランのアラグチ外相は Epic Mistake と呼んだ。

トランプはイランを「差し迫った危機」とし、「撃たねば撃たれる」と言ってイランを先制攻撃したが、NIC (18 の情報機関を統合した大統領の為の諮問機関) がトランプに事前に対イラン攻撃で目的とするイラン体制転換は難しいと進言していた。

NIC の助言通りイラン体制転換が不可能になると、トランプは現政権でもアメリカに友好的ならイランに繁栄をもたらすなどと言っている。

情報機関の一つである国家対テロセンター所長ジョー・ケントは、イランはアメリカにとって全く差し迫った危機ではなく、イラン戦争はトランプがイスラエルのネタニヤフ首相にそそのかされたものであってアメリカの為の戦争ではない。

自分は良心に従ってイラン戦争を支持することが出来ないと言って辞任した。

国家情報長官トゥルシー・ギャバードも口には出さぬがケントと同感である。

大統領情報諮問機関の分析を無視してネタニヤフの虜になって始めたイラン戦争はイラン外相に言われるまでもなく Epic Mistake (壮大な間違い) である。

トランプはイスラエルに引きずり込まれたイラン戦争に日本をはじめ同盟国を引きずり込もうとしている。欧州は、イラン戦争は欧州の戦争ではないと言って、トランプのホルムズ海峡への戦艦派遣要請を断っている。

するとトランプは NATO (北大西洋条約機構=アメリカ主導の欧州安全保障機関) で最悪のことが起きると脅している。

イラン大統領は、ホルムズ海峡は閉鎖していない、アメリカとイスラエル以外の船舶は自由に安全に航行出来るとメディアを通して発表している。

開戦から 600 億ドル (約 9 兆円) 以上使い、さらに 1,000 億ドル以上かかると言われているが、アメリカは一体何を得的のか。

「君子危うきに近寄らず」。高市総理もトランプの無謀な要望を上手にかわしてもらいたいものだ。日本としては、ことアメリカに関しては、トランプの寿命は本年 11 月の中間選挙までという前提ですべてのことを進めるべきである。

同盟国と国民の信頼を失い、やたらに振り回した武器 (関税) を失ったトランプの存在は「百害あって一利なし」になろうとしている。

習近平中国国家主席はトランプとの首脳会談が 1 か月ほど延期になったことを喜んでいるだろう。時間が経つほどトランプの内外存在感が落ちるからである。

習近平としてはトランプが強い時より弱くなった時に会った方が良い。

イスラエル・ハマス戦争、ウクライナ戦争、そしてイラン戦争。

最後に笑うのは誰あるう習近平である。

「小冊子」Vol. 156 をお読み下さい。

※増田俊男の小冊子 Vol.156 大好評発売中！お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。